



Cisco UCS Director リリース ノート、リリース 5.2

Cisco UCS Director リリース 5.2 2

システム要件 2

インストールおよびアップグレードに関する注意事項 2

新機能および変更された機能 4

未解決のバグおよび解決されたバグ 9

このリリースでのワークフロー タスクの変更 9

このリリースで非推奨となった API 11

関連資料 12

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート 12

改訂 : March 31, 2015,

Cisco UCS Director リリース 5.2

Cisco UCS Director は、サポート対象のコンピューティング、ネットワーク、ストレージ、仮想化プラットフォーム、および Cisco Unified Computing System (Cisco UCS) と Cisco Nexus プラットフォームに基づいた業界をリードするコンバージドインフラストラクチャソリューションに対し、統一され安全性に優れた管理を提供します。Cisco UCS Director は、Cisco UCS を通じてコンピューティング層およびネットワーク層の統合を拡張し、コンピューティング、ネットワーク、ストレージおよび仮想化に対する包括的な可視性と管理機能をデータセンター管理者に提供します。詳細については、Cisco.com で [Cisco UCS Director](#) を参照してください。

システム要件

[Cisco UCS Director installation and upgrade guides](#) に、このリリースの以下に関するシステム要件が記載されています。

- VMware vSphere
- Microsoft Hyper-V

サポートするブラウザバージョン

Cisco UCS Director は、以下のブラウザをサポートしています。これらのブラウザには、Adobe Flash Player 11 プラグインが必要です。

- Internet Explorer 8 以降
- Google Chrome 4.1 以降
- Firefox 3.5 以降
- Safari 4.0 以降 (Apple Mac または Microsoft Windows の場合)

いずれのブラウザにしても Adobe Flash Player プラグインバージョン 11 以降がインストールされている必要があります。

インストールおよびアップグレードに関する注意事項

Cisco UCS Director は、VMware には OVF 形式、Microsoft Hyper-V には VHD 形式で提供される標準の仮想マシンを使用します。Cisco UCS Director は VMware vSphere または vCenter、あるいは Microsoft Hyper-V Manager でホストできます。インストール手順については、該当する [Cisco UCS Director installation and upgrade guide](#) を参照してください。



(注) アップグレードパッチを適用して、そのインストールを完了した後、ShellAdmin の [Start Services] オプションを選択し、Cisco UCS Director サービスを開始/再開して、パッチプロセスを完了します。サービスが開始し、Cisco UCS Director が使用可能になり、ログイン画面が表示され、管理ユーザが UCSD にログインできるまで、パッチプロセスは完了または成功しません。

追加パッチの適用、データベースのバックアップ、バックアップからのデータベース復元など、すべての Cisco UCS Director サービスは他の ShellAdmin プロシージャを実行する前に停止する必要があります。

Cisco UCS Director でサポートされるアップグレードパス

Cisco UCS Director リリース 5.2 へのアップグレードパスは、ご使用中の Cisco UCS Director のバージョンにより異なります。Cisco UCS Director リリース 5.2 でサポートされるアップグレードパスは、以下のとおりです。

Cisco UCS Director の前のリリースへのアップグレード方法については、[該当するリリースのインストールとアップグレードのマニュアル](#)を参照してください。たとえば、リリース 3.x からアップグレードする必要がある場合は、最初にリリース 4.0 にアップグレードしてから、リリース 4.0 のアップグレードパスに従う必要があります。

現在のリリース	直接アップグレードのサポート	アップグレードパス
リリース 4.0.x.x	No	4.0 > 4.1 > 5.1 > 5.2
リリース 4.1.x.x	No	4.1 > 5.1 > 5.2
リリース 5.0.x.x	Yes	5.0 > 5.2
リリース 5.1.x.x	Yes	5.1 > 5.2

Baremetal Agent でサポートされるアップグレードパス

Cisco UCS Director Baremetal Agent (Baremetal Agent) リリース 5.2 へのアップグレードパスは、ご使用中の Baremetal Agent のバージョンによって異なります。

Baremetal Agent の以前のリリースへのアップグレード方法についての詳細は、[該当するリリースのインストールとアップグレードのマニュアル](#)を参照してください。たとえば、リリース 3.x からアップグレードする必要がある場合は、最初にリリース 4.0 にアップグレードしてから、リリース 4.0 のアップグレードパスに従う必要があります。

現在のリリース	直接アップグレードのサポート	アップグレードパス
リリース 4.0.x.x	No	4.0 > 5.0 > 5.2
リリース 4.1.x.x	No	4.1 > 5.0 > 5.2

現在のリリース	直接アップグレードのサポート	アップグレードパス
リリース 5.0.x.x	Yes	5.0 > 5.2



(注) Baremetal Agent にリリース 5.1 はありません。Cisco UCS Director リリース 5.1 を使用している場合は、システムに Baremetal Agent リリース 5.0 が含まれています。

新機能および変更された機能

ここでは、このリリースの重要な新機能および変更された機能の概要について説明します。ここでは、このリリースに含まれるすべての拡張機能を網羅して挙げることはしません。



(注) このリリースの Cisco UCS Director でサポートされる物理および仮想デバイスならびにソフトウェアについては、[このリリースの互換性マトリクス](#)を参照してください。

ガイド付きセットアップウィザード

Cisco UCS Director には、特定の機能の設定をガイドするウィザードが含まれています。

新しいウィザード

- **Baremetal Agent Setup** : このウィザードでは、ベアメタルエージェントアカウント (PXE インターフェイスおよび DHCP を含む) を追加して設定できます。
- **Vblock Pod Configuration** : このウィザードでは、Vblock アカウントを検出し、ポッドに割り当てることができます。
- **VSPEX Pod Configuration** : このウィザードでは、VSPEX アカウントを検出し、ポッドに割り当てることができます。

変更されたウィザード

- **Device Discovery** : このウィザードでは、追加のサポート対象デバイスを検出し、ポッドに割り当てることができるようになりました。
- **vDC Creation** : このウィザードでは、Hyper-V クラウドおよび vCenter クラウドに VM を正常にプロビジョニングするために必要なポリシーを設定できるようになりました。

ワークフローからのウィザードの作成

有効なワークフローからウィザードを作成できるようになりました。

Cisco UCS Mini のサポート

Cisco UCS Manager アカウントを使用して、Cisco UCS Mini のインベントリ作成、管理、設定を行えるようになりました。この機能がサポートされるのは、Cisco UCS Manager リリース 3.0 など、Cisco UCS Mini をサポートしている Cisco UCS Manager リリースのみです。

詳細については、『*Cisco UCS Director Management Guide for Cisco UCS Manager, Release 5.2*』を参照してください。

Cisco UCS C シリーズおよび E シリーズ ラック サーバのサポート

ラック アカウントを使用して、Cisco UCS C シリーズおよび E シリーズ ラック サーバのインベントリ作成、管理、設定を行えるようになりました。このサポートには次のサーバが含まれます。

- Cisco UCS C シリーズ M3 および M4 サーバ
- Cisco UCS E シリーズ M1 および M2 サーバ

以下の機能がサポートされます。

- ハードウェアのヘルス ステータス (モニタリング)
- サーバハードウェアのインベントリ
- vKVM ランチャによるサーバ管理
- ファームウェアのインベントリおよび管理
- Call Home (重大な障害の電子メールアラート)
- プラットフォームのグループ化およびタギング
- グループの検出



(注) 新しい C シリーズおよび E シリーズ サーバを追加する際には、ラック アカウントを使用することを推奨します。Cisco ラック サーバ (CIMC) アカウントを使用したラック サーバ管理のサポートは、将来のリリースで廃止される予定です。

Cisco Nexus 1000V for Microsoft Hyper-V のサポート

Cisco Nexus 1000V for Microsoft Hyper-V のサポートにより、Microsoft System Center Virtual Machine Manager (SCVMM) SP1 ネットワーク オブジェクト モデルに基づいて以下の新しいオブジェクトを設定および編集し、それらのオブジェクトを SCVMM に公開することができます。

- 論理ネットワーク
- ネットワーク セグメント プール
- IP プール テンプレート
- ネットワーク セグメント
- ネットワーク アップリンク

- 継承ポート プロファイル

詳細については、『Cisco UCS Director Network Devices Management Guide, Release 5.2』を参照してください。

VMの自動終了Eメールテンプレートの変更

VMの自動終了Eメールテンプレートは、Cisco UCS Director 5.2 リリースで変更されています。そのため、Cisco UCS Director 5.2 にアップグレードした後に、次の手順を実行する必要があります。

- 1 このテンプレートに変更を加えた場合は、変更内容をバックアップします。テンプレートの変更を行わなかった場合、ステップ2に進みます。
- 2 このテンプレートの [Edit Email Templates] ページで、[Reset to Default Body] チェック ボックスをオンにします。
- 3 バックアップバージョンから、変更をEメールテンプレートに再適用します。



重要 Cisco UCS Director 5.1 からバージョン 5.1.0.1 以上にアップグレードする際には、これらの手順に従う必要があります。

Microsoft Hyper-V サポートの機能拡張

Microsoft Hyper-V サポートの機能拡張および SCVMM との統合には、次が含まれています。

- VLAN ベース、プライベート VLAN ベース、およびネットワーク仮想化ベースのネットワーク モデルのサポート
- VM ネットワーク、ホスト ネットワーク、およびクラスタ ネットワークのトポロジ ビュー
- ホスト クラスタおよびホスト グループのインベントリ
- 指定された条件に基づいて Hyper-V ホストでのワークフローをトリガーして実行
- 展開ポリシー、ストレージポリシー、およびネットワーク ポリシーの機能拡張
- ホスト、クラスタ、VM、およびホスト グループのパフォーマンス データ
- SCVMM の Cloudsense レポート

詳細については、『Cisco UCS Director Integration Guide for Microsoft System Center Virtual Machine Manager, Release 5.2』を参照してください。

シスコアプリケーションセントリック インフラストラクチャ サポートの機能拡張

シスコアプリケーションセントリック インフラストラクチャ サポートの機能拡張には、次が含まれています。

- L3 ドメインの作成機能
- APIC ファイアウォール ポリシー
- NetScaler 1000v のサポート (DVS サポートのみ)
- VPC のサポート

- AVS のサポート
- VPX に AVS サポートを追加
- ASA v に AVS サポートを追加
- ASA v VM 展開ポリシー
- クラスタまたは複数のホストへのテナント オンボーディングのサポート

詳細については、『*Cisco UCS Director APIC Management Guide, Release 5.2*』を参照してください。

リソース グループの機能拡張

リソース グループの機能拡張には、次のサポートが含まれています。

- EMC VNX
- クラスタ
- 複数ホスト

詳細については、『*Cisco UCS Director APIC Management Guide, Release 5.2*』を参照してください。

Cisco UCS Director Baremetal Agent の機能拡張

Cisco UCS Director Baremetal Agent の機能拡張には、次が含まれています。

- ベアメタルエージェントアカウントを追加及び設定するための Baremetal Agent ガイド付きセットアップウィザード
- OVF 展開時に、1 つまたは 2 つの NIC を設定する機能
- Baremetal Agent アカウントのすべての PXE サービス要求を表示するビュー
- OS イメージストレージの NFS マウント ポイントのサポート
- Baremetal Agent アカウントのすべての OS イメージプロビジョニングを表示するビュー
- Cisco UCS Director から Baremetal Agent アカウントのログ（アカウント ログおよび DHCP ログを含む）を使用できるようになりました。

詳細については、『*Cisco UCS Director Baremetal Agent Installation and Configuration Guide, Release 5.2*』を参照してください。

Cisco Unified Fabric Automation サポートの機能拡張

Cisco Unified Fabric Automation リリース 2.0（旧称 Cisco Dynamic Fabric Automation）のサポートが使用可能になりました。

詳細については、『*Cisco UCS Director Unified Fabric Automation Management Guide, Release 5.2*』を参照してください。

EMC RecoverPoint サポートの機能拡張

EMC RecoverPoint サポートの機能拡張には、次が含まれています。

- 非同期レプリケーション モードのサポート
- グループ セットのサポート
- グループ ポリシー、コピー ポリシー、ジャーナル ポリシー、およびリンク ポリシーを設定、更新するための新しいタスクとアクション
- 以下をサポートするために、既存のタスクとアクションが更新されています。
 - コンシステンシグループの作成タスクおよびアクションで、コンシステンシグループの作成時に、グループポリシー設定、コンシステンシグループのプロダクションコピーの作成、およびそのプロダクションコピーのジャーナルポリシーのコピーをサポートするようになりました。
 - コンシステンシグループコピーの作成タスクおよびアクションで、コンシステンシグループコピーの作成時に、ポリシー設定のコピーをサポートするようになりました。
 - リンクの追加タスクおよびアクションで、2つのコンシステンシグループ間のリンクを追加する時に、ポリシー設定のリンクをサポートするようになりました。

Cisco UCS Director REST API の機能拡張

REST API の機能拡張には、次の API の追加または改善が含まれています。

- 特定のワークフローの入力タイプに応じた値の取得
- ユーザ アカウント
- グループ
- レポート
- サービス コンテナ
- APIC コンテナ
- アプリケーション コンテナ
- ワークフローの操作
- スクリプトの操作

詳細については、『*Cisco UCS Director REST Developer Guide, Release 5.2*』を参照してください。

マネージド サービス プロバイダ サポートの機能拡張

マネージド サービス プロバイダ (MSP) サポートの機能拡張には、次が含まれています。

- MSP のブランディング
- MSP 組織およびコンテナ レベルでのリソース制限
- MSP のグループ共有ポリシーの作成機能

詳細については、『*Cisco UCS Director Administration Guide, Release 5.2*』を参照してください。

Cisco UCS Director のその他の機能拡張

Cisco UCS Directorのその他の機能拡張には、次の改善が含まれています。

- LDAP 統合
- E メール テンプレート
- アイコン サポート
- 承認要求のリマインダおよびリマインダ間隔
- カタログ
- カタログ項目の展開の評価
- VM 所有権
- チャージ頻度

詳細については、『*Cisco UCS Director Administration Guide, Release 5.2*』を参照してください。

未解決のバグおよび解決されたバグ

このリリースで未解決のバグおよび解決されたバグには、[Cisco Bug Search Tool](#) を使用してアクセスできます。この Web ベース ツールから、この製品やその他のシスコ ハードウェアおよびソフトウェア製品でのバグと脆弱性に関する情報を保守する Cisco バグ追跡システムにアクセスできます。



(注) [Cisco Bug Search Tool](#) にログインしてこのツールを使用するには、[Cisco.com](#) アカウントが必要です。アカウントがない場合は、[アカウントを登録](#)できます。

[Cisco Bug Search Tool](#) の詳細については、[Bug Search Tool Help & FAQ](#) を参照してください。

このリリースで未解決のバグ

[Cisco Bug Search Tool](#) で未解決のバグを検索すると、このリリースで未解決のすべてのバグを確認できます。

検索結果には、未解決のバグの回避策（存在する場合）も含まれます。

このリリースで解決されたバグ

[Cisco Bug Search Tool](#) で修正されたバグを検索すると、このリリースで解決されたすべてのバグを確認できます。

このリリースでのワークフロー タスクの変更

以下に、このリリースでのワークフロー タスクの変更と、その変更による既存のワークフローへの影響（該当する場合）を説明します。

ワークフロー タスク	コンポーネント	変更による問題/エラー	問題の回避策
VLAN プールの作成	ネットワーク	ユーザ入力フィールド [Allocation Mode] (必須) のバインディングが変更された	タスクに ApicVlanPoolAllocationMode タイプの入力フィールドを追加します。
EPG へのサブネットの削除	ネットワーク	EPG へのサブネットの削除タスクが存在しなくなった	既存のタスクを削除し、EPG へのサブネットの削除タスクをワークフローに追加します。
外部ブリッジ型ネットワークからノードプロファイルを削除	ネットワーク	外部ブリッジ型ネットワークからノードプロファイルを削除タスクが存在しなくなった	既存のタスクを削除し、外部ブリッジ型ネットワークからノードプロファイルを削除タスクをワークフローに追加します。
コンテキストインターフェイスの設定	ネットワーク	ユーザ入力フィールド [Interface Name] (必須) のバインディングが変更された	タスクに ASAInsideInterfaceIdentity タイプの入力フィールドを追加します。
NAT の設定	ネットワーク	ユーザ入力フィールド [Real Source] (必須) のバインディングが変更された	タスクに NATSourceOrDestinationIdentity タイプの入力フィールドを追加します。
コンテキスト ACL の設定	ネットワーク	ユーザ入力フィールド [Interface Name] (必須) のバインディングが変更された	タスクに ASAInsideInterfaceIdentity タイプの入力フィールドを追加します。
サブインターフェイスの設定	ネットワーク	ユーザ入力フィールド [Physical Interface Name] (必須) のバインディングが変更された	タスクに ASAInsideInterfaceIdentity タイプの入力フィールドを追加します。
コンテキスト NAT の設定	ネットワーク	ユーザ入力フィールド [Protocol] のバインディングが変更された	タスクに NATDeviceProtocolIdentity タイプの入力フィールドを追加します。

ワークフロー タスク	コンポーネント	変更による問題/エラー	問題の回避策
セキュリティコンテキストの作成	ネットワーキング	ユーザ入力フィールド [Inside Interfaces] のバインディングが変更された ユーザ入力フィールド [Outside Interfaces] のバインディングが変更された	以下のタイプの入力フィールドをタスクに追加します。 <ul style="list-style-type: none"> 内部インターフェイスには ASAInsideInterfaceIdentity 外部インターフェイス名には ASAInterfaceIdentity
論理スイッチの作成	Hyper-V	リリース 5.2 にアップグレードすると、[Extension] という新しい必須フィールドがタスクに追加され、アップリンク ポート プロファイルの論理スイッチの作成バインディングが削除される。したがって、以前のリリースで作成したワークフローでこのタスクを実行すると、タスクがバインディング エラーで失敗する。	タスクを編集し、以下のユーザレベルの入力マッピング/タスク レベルの入力の値を指定してから、タスクを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> [Extension] フィールド (HyperV 仮想拡張 ID) の入力を提供します。このフィールドは、Hyper-V 論理スイッチの Nexus 1000V の作成をサポートしません。 [HyperV Cloud] フィールド (HyperV アカウントセクタ) を入力します。このフィールドタイプは、汎用テキストからアカウントセクタに変更されました。

このリリースで非推奨となった API

次の API は、このリリースで非推奨となりました。

- userAPISubmitServiceRequest
- userAPISubmitServiceRequestCustom

- userAPICheckFunds
- HYPERV_VM_PROVISION

関連資料

リリース ノートに加え、Cisco.com の次の場所で、Cisco UCS Director リリース 5.2 に関する資料を参照できます。

- [Cisco UCS Director 5.2 の資料、ダウンロード、サポート ページ](#)
- [Cisco UCS Director ドキュメント ロードマップ](#)
- [Cisco UCS Director 製品概要ページ](#)
- [Cisco DevNet の Cisco UCS Director](#)

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用、サービス要求の送信、追加情報の収集の詳細については、『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。このドキュメントは、<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> から入手できます。

『*What's New in Cisco Product Documentation*』では、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧を、RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用して、コンテンツをデスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2014-2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>